

資料 4

○ 第1号議案 関係資料

第42回全国豊かな海づくり大会 「基本構想（案）」

第42回全国豊かな海づくり大会 基本構想（案）

1 北海道の特色

(1) 魅力ある多彩な資源

北海道は、それぞれ特性の異なる日本海、太平洋、オホーツク海に囲まれ、雄大かつ変化に富む山岳、広大な湿原や湖沼などを有し、人々は古くからこの豊かな自然と緊密に結びつきながら、独自の文化と歴史を持ち、狩猟や漁労、採集を中心とする生活を営んでいました。

明治時代には、全国各地からの入植者によって数々の苦難を乗り越えながら開拓が行われたほか、欧米の技術や文化を導入するなど、先人たちの勇気と知恵によって近代化を進め、今日の生活の礎を築いてきました。

近年では、この豊かな自然の恵みを背景に、新鮮で豊富な素材を活かした美味しい食、世界自然遺産に登録された知床をはじめ多彩な表情を見せる風景など、地域の魅力ある観光資源によって、国内外から多くの人々が訪れています。

(2) 水産業の新たな挑戦

北海道の周辺海域は、北方に広く展開する大陸棚と日本海の武蔵堆などを擁し、海底地形が起伏に富んでいるほか、道東太平洋沖では黒潮と親潮が交錯して潮目がつくられるなど好漁場となっています。

この豊かな恵みを受け、漁業や水産加工業を中心に今日の水産都市や漁村が海岸線に沿って形成されてきました。

漁業生産は、主要魚種である秋サケ、ホタテガイ、コンブを中心に様々な魚種が生産され、数量・金額ともに都道府県別で第1位となっているほか、湖沼や河川では、シジミ、ワカサギなどが生産されています。

一方、近年、海洋環境の変化や漁業者の減少、高齢化等により秋サケ、コンブ、イカ、サンマなどの生産が大幅に減少し漁業経営の悪化を招いています。

水産業を取り巻く環境が大きく変化する中、北海道では漁業生産の早期回復と安定を図るため、回遊魚に依存しない新たな増養殖への挑戦と栽培対象種の生産回復に向けた取組を推進しています。

2 開催意義

北海道において昭和60年以来2度目となる「全国豊かな海づくり大会」を開催することは、世界的に問題となっている海洋プラスチックごみ対策など環境保全に対する道民の意識を高めるとともに、将来にわたって持続的に漁業が行えるよう、増養殖技術の向上や地域資源の有効利用・付加価値向上など、さまざまな取組を通して、豊かな海の恵みを守り次世代につなげる生産者の想いを全国に知ってもらおう絶好の機会となります。

また、世界的にも需要が高い道産水産物をはじめとした食や魅力ある地域資源を活かしたイベント、四季折々の自然、独自の文化など「北海道ブランド」を全国にPRし経済の活性化につなげていきます。

3 基本理念

先人たちが守り続けた豊かな海の恵みに感謝し、この大切な財産を次の世代につなげるとともに、栽培漁業や地域資源の利活用など多様な取組を「オール北海道」で推し進め、水産業の持続的な発展と地域の活性化を図ります。

4 基本方針

(1) 豊かな自然の保全と継承

海洋プラスチックごみ対策など環境保全の取組を推進し、豊かな自然の恵みを次の世代につなげていく大会とします。

(2) 地域を支える水産業の発展

漁業生産の早期回復に向け栽培漁業を一層推進するとともに、都市部との多様な交流や連携などにより、水産業の発展と地域の活性化を図る大会とします。

(3) 北海道ブランドの魅力発信

豊かな自然が育んだ高品質で安全・安心な食などに代表される「北海道ブランド」の魅力を高める大会とします。

(4) 北海道独自の歴史や文化の理解促進

アイヌ文化をはじめ、本道の特色ある歴史や文化への理解をより一層深める大会とします。

5 大会の概要

(1) **名 称** : 第42回全国豊かな海づくり大会

(2) **主 催** : 豊かな海づくり大会推進委員会
第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会

(3) **開催時期** : 令和5（2023）年秋季（2日間）

(4) **開催場所** : 式典行事 別途選定
海上歓迎・放流行事 別途選定

(5) 行事内容

① 式典行事

功績団体表彰、稚魚等のお手渡し、作品コンクール入賞者発表、大会決議 など

② 海上歓迎・放流行事

本道の主要な稚魚等の放流、海上歓迎パレード など

③ 歓迎レセプション

本道の水産物をはじめとした道産食材を豊富に使ったおもてなし など

④ 関連行事

作品コンクール入賞作品展示、栽培漁業の企画展示、特産品販売 など

(6) 大会テーマ等

公募により決定します。